

ご来場の皆様、寒い中お越しいただきありがとうございます。

突然ですが、自己紹介が苦手です。前原麻希35歳B型、死ぬ前に食べたいものは埼玉にあるイタリアンのラザニア。自己紹介なんてこのくらいで十分でしょう？ そんなに興味ありますか私のこと。と思わず喧嘩腰になるくらい苦手です。

OUTBACKのみんなは自分のことを話すのがとてもうまいです。病気のこと、身の周りのこと、不安なこと等。時系列で分かりやすく話してくれます。きっと何度も聞かれて何度も話してきたんだと思います。自分の言葉を持っているのはとてもかっこいい。心から羨ましいです。豊かな言葉は演劇を彩ります。また言葉でうまく言い表せないことも演劇にすれば伝えられるかもしれません。みんなの言葉と演劇の融合がOUTBACKアクターズスクールの公演です。

「ひきこもっていいとも」はそんな生の言葉がたくさん聞こえてくると思います。生放送ならぬ生上演。観覧席にも話しかけてくるかもしれません。あの番組のように答えていただけたら嬉しいです。「愛と変容についてのラップバトル」は去年初演、今夏に関西verとして再演し、さらに深みを増しました。そして今回もいくつかの変化がありました。身の回り、自分の中の変化、演じることで気づき、人に合わせて演劇が変わっていく。周りもその声に耳を傾け変わっていくことを受け入れる。この演劇を作ること自体が変容なのだと感じています。

そして4年目のあかいくつ劇場、もはやホームみたいな気持ちです。それなりに生きてると家っぽい場所がいくつか増えました。家っぽい、言葉ではうまく言えなさそうなので、公演を見て感じていただけたら幸いです。OUTBACKもみなさんにとってそんな場所であるといいなと思います。

そんなわけで、今日はあかいくつにひきこもって～(いいとも)

OUTBACKアクターズスクール講師、俳優 前原麻希

今年のOUTBACKは、昨年も参加していたメンバーたちを中心に数名新しいスクール生が加わった形でスタートしました。創作の上では、2年がかりだからいける深いところに手が届くし、稽古中には、2年がかりだからより親しくなったり、お互いを知った上でのトラブルが起こります。ラップ班とバラエティショー班で、なかなか会えなくて残念だという声も上がります。コミュニティとして、むくむく成長しているという体感があります。そのうちOUTBACK内で部活とか生まれそうです。

とはいえ、このコミュニティの核にあるのは、「声を出して自分を発信する場であること」、「演劇をするという行為で社会とつながること」です。みんなのために創作を続けていますし、そのためにスタッフはサポートしています。発信する声を探るべく、稽古場では自分の記憶からシーンを作ったり、エピソードを話したりします。記憶のなかに音楽の鳴る美しい風景があること、自分の深いところに治療者となる自分を見つけられたこと、過去の自分にとって現在の自分が希望になり得ること。2年がかりともなると自分史の奥深くから宝石のようなものがゴロゴロと発掘されていきます。それをみんなで磨いて光らせて、今日ようやくお見せすることができます。

本日はご来場くださりありがとうございます。

OUTBACKアクターズスクール講師、劇作家 オノマリコ

今後の予定

- 2024年12月15日(日) のらくろーどこーりアートフェス(江東区)
主催:東京アートサポートセンターRights <https://rights-tokyo.com/>
- 2024年12月22日(日) アウトバックのラップ・ミニライブ!(練馬区)
主催:表現クラブがやがや <https://www.facebook.com/Gayagayahappyoukai/>
- 2025年3月9日(日) 「精神障害を考える演劇ワークショップ・プロジェクト(仮)」(横浜市)
主催:神奈川県、企画製作:公益財団法人神奈川芸術文化財団 <https://kyosei-kyoso.jp/>

アシスタント しずく、ばっさー
音楽 西井夕紀子、村野瑞希
舞台監督 稲元洋平
音響照明 富山雅之
制作 横井貴子
スペシャルサンクス とらさぶろうさん、FUNIさん、紫雲会横浜病院のみなさん
イラスト サンくん
写真 佐藤光展
デザイン 和田みさき

OUTBACKプロジェクト

ホームページ

<http://outback-jp.com>

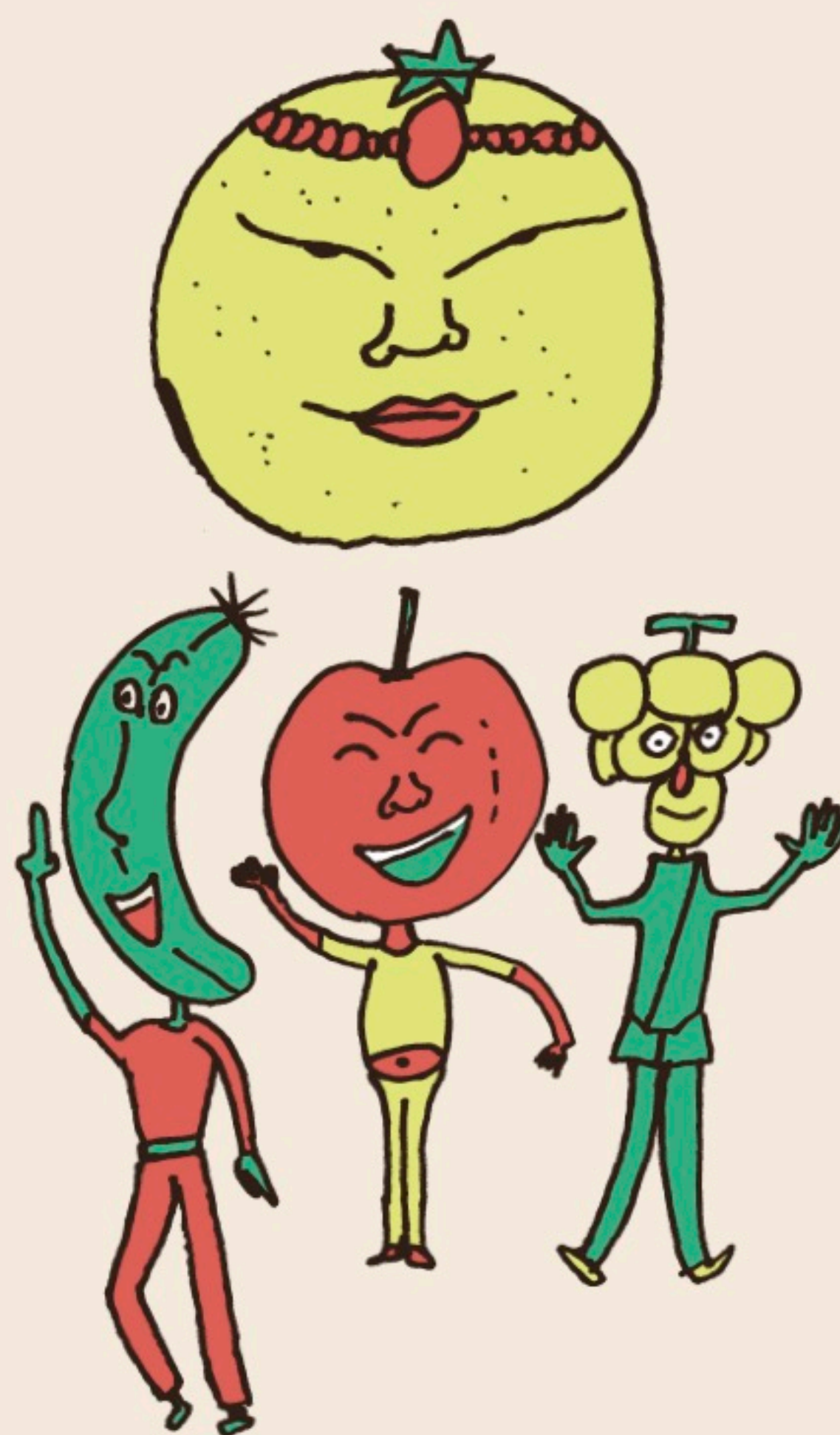
メール

outback.info.2021@gmail.com

Youtube

「OUTBACKプロジェクトチャンネル」

<https://www.youtube.com/@outback6370>



ヨコハマ
アートサイト

主催:OUTBACKプロジェクト 助成:神奈川県マグカル展開促進補助金事業、横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2024

OUTBACK アクターズ スクール

第4回 横浜演劇公演

- ★ 「バラエティショー ひきこもっていいとも！」
- ★ おしゃべりタイム「表現する、発信する、そして元気になる」
- ★ 「愛と変容についてのラップバトル最新ver」

日時 2024年12月1日(日) 15時開演

*プレビュー公演:11時開演

場所 あかいくつ劇場



本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。

あかいくつ劇場での公演が4回目となる今年、「バラエティショーひきこもっていいとも！」と「愛と変容についてのラップバトル最新ver」2つの作品を上演します。この4年間、OUTBACKのメンバーが病を経て経験してきたことをもとに劇をつくるという創作方法をずっと続けてきました。なので、メンバーのたくさんの経験、思いを共有してきました。けれど驚くべきことに、話せば話すほど、まだまだ知らないことがたくさん出てくるのです。また、既に聞いたことのあるエピソードであっても、新しいメンバーが加わり、時間が経って改めて聞いた時に、そのできごと、その人自身の全く違う側面が見えてきたりもします。「人の生き様」とは、本当に奥深いものです。この奥深さに魅了され、そこにどう向き合っていくか試行錯誤しながら、私たちは演劇をつくり続けています。

本日もご来場いただいた皆さまにも、OUTBACKのメンバー一人一人の「生き様」の奥深さを味わいながら、劇を楽しんでいただければと思います。

OUTBACKプロジェクト共同代表(スクール校長)、演劇プラクティショナー 中村マミコ

今回の「おしゃべりタイム」には2人のゲストをお招きしました。精神科認定看護師の田邊友也さんと映画監督の飯田基晴さんです。田邊さんとは16年前に知り合いました。越智元篤のペンネームで田邊さんが出版した『精神科看護師、謀反一極私的「革命」レポート』という物騒なタイトルの本を読み、「この看護師は正気なのか? 謀反の覚悟はあるのか?」を確かめたくて大阪に会いに行ったのです。間違いなく正気で、自ら開設した相談電話に24時間対応する熱い男でした。田邊さんも私も、患者の症状を悪化させる精神医療に心底憤っていたので、すぐに意気投合しました。田邊さんは今、トラウマインフォームドケア(TIC)を生かした訪問看護で大活躍しています。

飯田さんと出会ったのは4年半前、障害者グループホームを毛嫌いな住民たちが、戦国合戦さながらの黄色いヘイト幟旗を林立させた住宅街でのことでした。飯田さんは一見物静かですが、田邊さんと同じく熱い魂を宿しています。グループホーム反対運動を扱った作品『不安の正体』に続き、OUTBACKアクターズスクールのドキュメンタリー映画『わたしを演じる私たち』を今年完成させてくれました。今月、東京ドキュメンタリー映画祭で上映されます。

「表現する、発信する、そして元気になる」。OUTBACKプロジェクトは様々な分野のプロフェッショナルたちと連携しながら、日本のメンタルヘルスを向上させる新たな方程式を創り出していきます。

OUTBACKプロジェクト共同代表(スクール副校長)、医療ジャーナリスト 佐藤光展